

地域・在宅看護方法論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 岩渕 光子 教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

・学修方針（講義概要等）

子どもから高齢者まですべての年代、健康の保持増進から看取りまであらゆる健康レベルの対象者が地域で暮らす中、多様な事例を通して、在宅療養者と家族に対しての日常生活援助や医療的ケアについて具体的な技術を学ぶ。病院から自宅・施設へ療養の場の移行に伴う退院移行支援の必要性について学び、地域・在宅における看護過程の特徴をふまえ、情報収集・アセスメント・計画立案・実施評価の一連の流れを学修する。その中で、本人・家族の希望を重視しながら看護課題・ニーズに対応するため、多職種・多機関との連携、看護職間の連携、近隣住民との連携がかかせないことを学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

地域に暮らす在宅療養者と家族を対象とした看護過程の展開を実施することにより、生活の中に医療的ケアをとりいれ、その家庭にあった物品の工夫、本人・家族への療養生活の指導など具体的な看護計画の立案が必要なことを理解できる。また、地域・在宅看護で多く出会う脳卒中後遺症・小児・終末期・難病などの事例を想定し、その対象にあった在宅療養生活と医療的ケアについてイメージできる。同時に、在宅療養を継続する中で疾患や障害の理解とともに、本人・家族を取り巻く環境の中で起こりうる問題である老々介護、介護疲労、社会的孤立などの社会的背景をふまえ、どのような支援が必要なのか考えることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー： 4, 5, 6

・到達目標（SBO）

1. 病院と自宅・施設等との継続看護について、スムーズな移行・連携のために必要な体制について説明できる。
2. 地域・在宅における看護過程の特徴を理解し、情報収集、アセスメント、目標設定、計画立案、実施評価の過程について説明できる。
3. 地域に暮らす在宅療養者と家族について、対象にあわせた日常生活援助および医療的ケアについて説明できる。

4. 地域に暮らす在宅療養者と家族を支援するための具体的な社会資源の活用について考えることができる。
5. 地域には多様な疾患・障害、社会的背景をかかえながら生活している人々があり、その人らしさを尊重して支援することが大切なことを理解できる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-B 講義室

【講義】

月日 (曜) 時限	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
9/20 (水) 2 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教	療養の場の移行に伴う看護 (教科書①p.103~113) ・ 継続看護の重要性を述べられる ・ 医療施設、介護施設の概要を説明できる ・ 退院前カンファレンス、地域連携クリニカルパスについて説明できる 事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。
9/27 (水) 2 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 (ゲストスピーカー)	患者サポートセンター入退院支援看護師の実践について ・ 療養の場の移行に伴う入退院支援に関わる看護職の役割を説明できる ・ 退院支援に関わる多職種との連携の必要性を説明できる
10/4 (水) 2 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教	在宅看護過程 (教科書①p.212~220,②22~30) ・ 在宅療養者と家族の多様性を理解できる ・ 訪問看護における看護過程の特徴を説明できる ・ 在宅療養者の特性に対応した看護過程の展開が理解できる 事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。
10/6 (金) 1 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅看護過程の展開 1 —グループワーク— ・ 在宅で療養する事例の概要を捉える ・ グループで担当する在宅療養者と家族の看護に必要な情報収集の方法とアセスメントの視点が理解できる 事後学修：担当になった事例の関連図を作成し、看護課題・ニーズを抽出する
10/16 (月) 4 限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教	在宅看護過程の展開 2 —グループワーク— ・ グループで担当する在宅療養者とその家族の生活上の課題・ニーズについて関連図を用いて説明できる 事後学修：担当になった事例の暮らす地域における支援体制 (多職種・多機関) について調べる

<p>10/20 (金) 1 限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教</p>	<p>在宅看護過程の展開 3 —グループワーク— ・グループで担当する事例の社会資源も含めた支援の方法を 考えることができる ・在宅療養者の特性に対応した看護課題・ニーズを抽出でき る。 ・看護課題・ニーズの優先順位を根拠に基づき説明できる。</p> <p>事後学修：発表に向け準備を行う</p>
<p>10/23 (月) 3 限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教</p>	<p>日常生活を支える看護技術（教科書②p.70～104） ・食生活におけるアセスメント方法を述べられる。 ・在宅療養の場における排泄およびその支援について説明で きる。 ・介護者や家族に負担のない生活環境の整備について考察で きる</p> <p>事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。</p>
<p>10/25 (水) 2 限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教</p>	<p>在宅看護過程の展開 4 —グループワーク・発表— ・グループで担当する事例の看護課題・ニーズについて発表 できる。 ・他の事例から、在宅療養者と家族の看護課題・ニーズの特 徴を説明できる。</p>
<p>11/6 (月) 4 限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤澤 純子 助教</p>	<p>在宅における医療的ケア 1 —薬物療法、がん外来化学療法— （教科書②p.108-117） ・薬物療法、がん外来化学療法をしている療養者・家族への 看護が説明できる。 ・服薬管理が必要な療養者への看護が説明できる。</p> <p>事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。</p>
<p>11/8 (水) 2 限</p>	<p>地域包括ケア講座 藤澤 純子 助教</p>	<p>在宅における医療的ケア 2 —排痰ケア・在宅酸素療法・人工呼吸器療法— （教科書②p.117-137） ・在宅療養者の呼吸機能と環境のアセスメントが理解できる ・在宅酸素療法や人工呼吸器を装着している療養者・家族へ の看護が説明できる。（災害時も含めて）</p> <p>事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。</p>
<p>11/13 (月) 3 限</p>	<p>地域包括ケア講座 松岡 真紀子 助教</p>	<p>在宅における医療的ケア 3 —排泄ケア—（教科書②p.137- 145） ・在宅における尿道留置カテーテルやストーマ装着の療養 者・家族への看護が説明できる</p> <p>事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。</p>

11/20 (月) 3限	地域包括ケア講座 藤澤 純子 助教	在宅における医療的ケア4 —経管栄養法・中心静脈栄養— (教科書② p.145-155) ・経管栄養や中心静脈栄養の療養者と家族への支援を説明できる ・在宅ケアにおける医療的ケアを必要とする療養者と家族への支援について説明できる 事前学修：教科書を読んで概要を把握しておく。指示する課題に取り組む。
11/27 (月) 2限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教	総括；各事例の看護計画へのフィードバック ・グループワーク、発表会を通じて、在宅で生活する療養者と家族の特性を理解して展開される看護の役割および多職種・多機関の連携を考えることができる
12/4 (月) 4限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教	「家にいたい」と希望する療養者・家族への支援 —在宅で難病を抱える療養者と家族を支える看護— ・筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者と家族への看護について説明できる。 ・パーキンソン病の療養者と家族への看護について説明できる。 ・難病を抱えながら在宅での生活を送る意味、健康危機管理(災害など)について考えられる。
12/11 (月) 3限	地域包括ケア講座 藤原 弥生 助教	「家にいたい」と希望する療養者・家族への支援 —在宅におけるエンド・オブ・ライフケア— ・在宅で最期を迎える療養者への看護を説明できる ・自己決定(意思決定)への支援が理解できる 事後学修：レポート課題に取り組む

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア	臺 有桂 他編	メディカ出版	2022
教	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術	臺 有桂 他編	メディカ出版	2022
参	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤	河原 佳代子 他	医学書院	2022
参	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践	河原 佳代子 他	医学書院	2022
参	関連図で理解する在宅看護過程 第2版	正野 逸子 他編	メヂカルフレンド社	2021

参	家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第5版	渡辺 裕子 監修	日本看護協会出版会	2021
参	基礎からわかる地域・在宅看護論	池西 静江 編著	照林社	2021

・成績評価方法

定期試験 70%、グループワーク・提出課題 30% 合計 100%にて評価する。

締切日に課題提出ができない場合は、事前に連絡を行い適切な対応を求める。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている次回の授業内容及び到達目標を確認し、教科書・参考書等を用いて事前・事後学修を行うこと。また、授業を受けた後は該当する内容を教科書等で復習し、ポイントを整理して次回の授業に関する課題に取り組む。各授業に対する事前・事後学修時間は最低 30 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

- ・適宜、WebClass に授業中に解説した資料等を掲載するので確認すること。
- ・レスポンスカード・提出された課題については、授業等で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援
看護師（別表 3）：専門分野 地域・在宅看護論

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義および学生のグループ発表時資料投影
講義	DVD（ブルーレイおよび一般 DVD）再生機器	1	講義時資料投影
講義	デスクトップパソコン（HP ProDesk 400 G7 SFF）	1	講義資料の作成等